


概要報告書

2022 年度

事業種別	広域安全事業
団体名	一般社団法人 Colabo
事業名	虐待、性犯罪被害女子の保護・自立支援及びシェルター運営事業
<p>本事業では、シェルターの運営を通して、虐待や性暴力被害にあうなどした中高生世代の女子を支える活動を行った。虐待や貧困、生活困窮や性暴力被害などさまざまな困難を抱えながら、孤立し、安心して過ごせる場所や支援に繋がらずにいる少女を発見し支える「一時シェルター」と、「中長期シェルター」を運営した。</p> <p>一時シェルターは、虐待や性的搾取の被害から逃げてくる少女など 10 代～20 代前半の少女たちが利用した。中長期シェルターは、児童養護施設や自立援助ホームを退所した後に行き場をなくしたケースや、児童相談所に相談したものの既存の福祉施設などでは受け入れ困難として断られ、知人宅を転々とするなどしているケースや、一切の公的支援に繋がることなく性搾取の被害にあっていたケースもあった。</p> <p>新型コロナウイルスが流行して以降、家族関係の悪化や DV の深刻化、経済的困窮などを背景に相談は多くなっており、今年度も 12 月までに 1,000 名に迫る少女たちから相談があった。</p> <p>コロナが落ち着いてきた状況とは対照的に、街には性搾取を目的とした業者やスカウトがあふれ、被害に遭う少女たちが後を絶たない。10 代前半などこれまで以上に低年齢の少女たちまでもが狙われ、性搾取に取り込まれている現状もある。夜の繁華街にバスを出して行っているアウトリーチ活動ではこうした少女にも多く出会うことになった。</p> <p>アウトリーチで出会ったことをきっかけに中長期シェルターで暮らし始めた少女もいる。シェルター利用後は社会的養護を受けて暮らす、一人暮らしを始める、医療や福祉制度を利用しながら生活を続けるなどしている。大学や専門学校に進学した者、高校に通う少女もいた。</p> <p>支援を続ける中で、シェルターが保護につながる拠点となるだけでなく、孤立した少女たちにとっての居場所ともなってきた。本年度も新型コロナウイルス感染対策として、大人数で集まることが難しかったが、感染症対策を行いながら、料理教室やクリスマス会、年末年始合宿など活動も行った。</p>	
	
※シェルターでの調理風景	

注) 上記の報告書は、助成対象団体が作成した報告書です。(公財)日工組社会安全研究財団では、記載された事業の内容等に関するお問合せには対応できませんのでご了承ください。